

## 第2節 青少年の安全

### 1 事故死の概況

【地域福祉課】

青少年の事故死の概況は、平成27年では0～29歳の不慮の事故による死亡が12人で、同年齢層は全死者数の19.7%であった。この割合を年齢階級別でみると、10～14歳（50.0%）、5～9歳（33.3%）、15～19歳（28.6%）の順となっている。

第10表 年齢階級別不慮の事故による死亡者数

年次	5歳階級別人員						総数
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	
平成23年	0	0	0	0	5	2	7
平成24年	2	1	1	2	5	4	15
平成25年	1	3	1	5	4	3	17
平成26年	2	1	2	1	3	9	2
平成27年	3	1	1	2	2	3	12
平成27年 全死者数	15	3	2	7	13	21	61
同上に対する 割合(%)	20.0	33.3	50.0	28.6	15.4	14.3	19.7

資料出所：地域福祉課

### 2 交通事故

【県警交通企画課】

#### (1) こども（中学生以下）の事故

こどもの事故は、平成28年中に発生した全人身事故1,847件中75件（4.1%）で前年と比較して減少傾向にあり、傷者数は81人で全死傷者2,192人の3.7%を占めている。

こどもの人身事故を減少させるための施策として、県警では自転車教室等の参加・体験・実践型の交通安全教育やチャイルドシートの正しい使用に係る広報啓発を実施している。

#### (2) 若者（16～24歳）が第1当事者の事故

若者が第1当事者となった人身事故は、平成28年中334件（全人身事故の18.1%）、このうち死亡事故については9件（全死亡事故の18.4%）発生し、前年に比べて、人身事故は減少したものの、死亡事故は増加した。

死亡事故の内容をみると、9件中7件が夜間に起きており、運転中の若者1人が亡くなった他、6人の交通弱者が犠牲となっている。

若者が第1当事者となる事故における交通違反としては、前方不注視や安全不確認のほか、動静不注視、ハンドルブレーキ操作不適及び信号無視が多い。

第11表 29歳以下の年齢層別交通事故死傷者数（過去5年間）

年次	6歳以下	7～12歳	13～15歳	16～19歳	20～24歳	25～29歳	合計
平成24年	41(0)	89(0)	45(1)	151(0)	309(4)	338(1)	973(7)
平成25年	51(0)	94(1)	61(1)	137(3)	288(2)	315(1)	946(8)
平成26年	33(0)	61(1)	48(0)	118(2)	227(2)	293(2)	780(7)
平成27年	38(0)	47(0)	30(0)	127(2)	224(1)	249(4)	715(7)
平成28年	24(0)	42(0)	27(0)	77(1)	162(0)	187(1)	519(2)

注：( )内は死者数で内数

資料出所：県警交通企画課

第12表 29歳以下が第1当事者の年齢層別交通事故発生状況（過去5年間）

区分 年次	16～19歳			20～24歳			25～29歳			合計		
	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者
平成24年	141	1	177	435	4	524	324	3	390	900	8	1,091
平成25年	165	3	216	365	2	444	303	6	369	833	11	1,029
平成26年	116	2	134	300	4	354	222	3	258	638	9	746
平成27年	128	2	168	308	3	382	207	6	252	643	11	802
平成28年	100	2	123	234	7	276	168	2	202	502	11	601

資料出所：県警交通企画課

(3) 時間別発生状況

15歳以下では、傷者93人中40人（43.0%）が16～20時の時間帯に、16～24歳では、死傷者239人（死者1人）中103人（43.1%）が16～20時の時間帯に、交通事故に遭遇しており、危険な時間帯を示している。

死者については、16歳～29歳の年代では、0～2時の時間帯に1人、6～8時の時間帯に1人が死亡している。

第13表 交通事故による29歳以下の発生時間別死傷者数（平成28年中）

	6歳以下	7～12歳	13～15歳	16～19歳	20～24歳	25～29歳	合計
0～2時				2(1)	4(0)	5(0)	11(1)
2～4時				1(0)	3(0)	5(0)	9(0)
4～6時					2(0)		2(0)
6～8時	4(0)	2(0)	3(0)	5(0)	14(0)	18(1)	46(1)
8～10時		4(0)	1(0)	12(0)	13(0)	31(0)	61(0)
10～12時	3(0)	3(0)	5(0)	5(0)	17(0)	17(0)	50(0)
12～14時	3(0)	7(0)	3(0)	7(0)	21(0)	18(0)	59(0)
14～16時	4(0)	7(0)	1(0)	5(0)	17(0)	24(0)	58(0)
16～18時	4(0)	17(0)	9(0)	13(0)	28(0)	24(0)	95(0)
18～20時	4(0)	2(0)	4(0)	11(0)	25(0)	24(0)	70(0)
20～22時	2(0)			14(0)	12(0)	14(0)	42(0)
22～24時			1(0)	2(0)	6(0)	7(0)	16(0)
合計	24(0)	42(0)	27(0)	77(1)	162(0)	187(1)	519(2)

注：（ ）内は死者数で内数

資料出所：県警交通企画課

(4) 状態別発生状況

小・中学生の年代である7～15歳では、自転車利用中が傷者69人中32人（46.4%）と最も多く、次いで自動車同乗中が21人（30.4%）、歩行中が16人（23.2%）となっている。未就学児童の年代である6歳以下では、自動車同乗中が傷者24人中16人（66.7%）と最も多く、次いで歩行中が5人（20.8%）となっている。

若者については、16～19歳では、自動車運転中が死傷者77人中28人（36.4%）、自転車利用中、自動車同乗中がそれぞれ22人（28.6%）となっており、20～24歳では、自動車運転中が傷者162人中114人（70.4%）と多くなっている。

平成28年中の交通事故抑止対策として、県警察では、自転車シミュレーターの活用や中高生対象のスケアード・ストレイト（スタントマンによる危険疑似体験）教育技法による参加・体験・実践型の自転車交通安全教室やシートベルト着用効果体験車等の安全運転体験車を活用した交通安全教室を開催しているほか、早朝の通学路における街頭監視活動及び交通事故に直結する悪質性・危険性の高い違反に重点を置いた交通指導取締りを強化した。

第14表 交通事故による29歳以下の状態別死傷数（平成28年中）

区 分	6歳以下	7～12歳	13～15歳	16～19歳	20～24歳	25～29歳	合 計
歩 行 中	5(0)	12(0)	4(0)	3(0)	1(0)	9(0)	34(0)
自転車利用中	1(0)	18(0)	14(0)	22(0)	6(0)	3(0)	64(0)
自転車同乗中	1(0)						1(0)
二輪車運転中				2(0)	11(0)	2(0)	15(0)
二輪車同乗中							
自動車運転中				28(1)	114(0)	146(1)	288(2)
自動車同乗中	16(0)	12(0)	9(0)	22(0)	30(0)	26(0)	115(0)
そ の 他	1(0)					1(0)	2(0)
合 計	24(0)	42(0)	27(0)	77(1)	162(0)	187(1)	519(2)

注：( )内は死者数で内数

資料出所：県警交通企画課

### 3 水難事故

【県警地域課】

県内における過去3年間の各年代別の水難による死亡事故について、警察が認知した状況は、下記第15表のとおりである。

過去3年間の事故状況については、夏季期間（6月から8月）に集中的に発生しており、主な事故原因として、幼児や児童に対する保護者等の監護不十分、飲酒による体調不良、釣り中のバランス崩しによる転落などが挙げられ、事故の大半は海において発生している。

こうした事故を防止するため、特に夏季期間において、関係機関と連携した水難危険箇所との環境整備、施設関係者及び保護者等に対する積極的な広報活動を行い、水難防止に努めていくことが望まれる。

第15表 水難事故における死亡者数（過去3年間）

年次	年齢別死亡者数							水難死亡者総数 (成人を含む。)
	6歳未満	6～12歳	13～15歳	16～19歳	20～24歳	25～29歳	総 計	
平成26年		1		1	2		4	14
平成27年		2		1			3	22
平成28年					1	2	3	14

注：船舶事故は除く。

資料出所：県警地域課

第16表 水難事故の発生認知状況（平成28年）

年齢別	発生件数	水難者	内 訳			
			死 者	行方不明	負傷者	無事救出
6歳未満	3	3			1	2
6～12歳	2	2			1	1
13～15歳						
16～19歳						
20～24歳	5	6	1			5
25～29歳	2	2	2			
総 計	12	13	3		2	8

資料出所：県警地域課

#### 4 学校における事故災害

【スポーツ保健課】

学校管理下における事故災害の発生状況（※平成 27 年度）は、第 17 表のとおりである。小学校では、休憩時間における災害発生が多いが、中・高等学校では体育的部活動中に多く発生している。また、負傷・疾病の種類別発生状況は第 18 表、学校における負傷の場別発生状況は第 19 表のとおりである。

学校における安全は、児童生徒等が自らの行動や外部環境に存在する様々な危険を制御して安全に行動できるようにすることを目指す安全教育と、児童生徒等を取り巻く外部環境を安全に整えることを目指す安全管理との両面から進められている。そして、自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成するとともに、積極的に安全な環境づくりができるようにすることを目指している。

今後、学校における災害をできるだけ少なくするためには、社会環境の変化に対応した安全教育を積極的に進めるとともに、幼児期からの親の養育態度や地域社会の関わり方なども一層重要な部分を占めていることから、家庭、地域との連携および安全関係機関との協力などの組織活動を含めながら、学校全体を通して計画的に展開されることが大切である。

第 17 表 学校における場合別、災害発生状況（平成 27 年度）

	各教科等		特別活動 及び 学校行事	課外指導		休憩時間	登下校中	計（件数）
	体育	他教科		体育的部活動	他課外指導			
小学校	465	105	329	21	46	1,026	143	2,135
中学校	483	33	197	1,206	35	276	95	2,326
高等学校	223	17	135	796	16	50	48	1,286

第 18 表 学校における負傷・疾病の種類別、災害発生状況（平成 27 年度）

	負傷						疾病	計（件数）
	挫傷・打撲	捻挫	骨折	挫創	切創	他負傷		
小学校	587	437	527	133	71	225	155	2,135
中学校	548	586	691	59	14	223	205	2,326
高等学校	290	268	346	39	18	190	135	1,286

第 19 表 学校における負傷の場別、災害発生状況（平成 27 年度）

	学校内・校舎内						学校内・校舎外		学校外				計（件数）
	体育館・ 屋内運動場	教室	廊下	階段	実習 実験室	その他	運動場・ 校庭	その他	道路	運動場・ 競技場	体育館	その他	
小学校	788	339	169	108	20	80	365	32	152	22	5	55	2,135
中学校	975	110	110	72	27	35	469	16	107	172	189	44	2,326
高等学校	550	29	25	12	9	10	346	12	57	132	68	36	1,286

資料出所：日本スポーツ振興センター